

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立鬼塚中学校
1 前年度 評価結果の概要	昨年度は全職員が「チーム鬼塚」として校内研や開発的生徒指導に取り組み、授業改善や問題行動の未然防止に成果が見られた。 残る課題としては学力の向上、生徒同士の人間関係に起因する生徒間トラブル、不登校生徒の増加などがある。 本年度は、授業改善をさらに進めるとともに、組織的な生徒指導を発展させながら心の教育や生徒の人間関係づくりを促進し、不登校対策を充実させる必要がある。
2 学校教育目標	『感動 感謝 思いやり』 ～ 支え合う生徒、支え合う先生、支え合う学校づくりを通して ～
3 本年度の重点目標	① 主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業改善を進める。 ② 豊かな心を育み、人間関係づくりを充実させ、生徒間トラブルを減少させる。 ③ 不登校対策を充実させる。

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・90%を超える職員がマイプランの指標を概ね達成できた。しかし、県の学習状況調査(12月)の結果は県平均をかなり下回っており、マイプランの見直しを含め取組の再検討が必要である。	B	・職員の研修等により、授業の改革が進められていることは評価できる。ただし、県平均との差があるのは現実であり、書く力、説明する力、活用する力を伸ばすよう、さらに工夫を重ねていっていただきたい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○「めあて」「学び合い」「まとめ」「振り返り」の流れを取り入れた授業づくりを行う。	○「友達の意見や考えを聞いて学習内容が分かったり、なるほどと思ったりしたことがありますか。」に肯定的な回答の生徒の割合80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」及び「唐津市アクションプラン」を基本とした授業づくりを推進する。	A	・生徒アンケートの結果94%が「友達のことを聞いて分かったり、なるほどと思った」に肯定的であった。対話的な学びの授業がかなり浸透してきたと言える。	A	・学校評価アンケートの生徒たちの結果から見ても、対話のある授業が、生徒たちの理解を促進している様子がよく見て取れた。この取り組みを継続・発展させ、学習状況調査等でも結果がでるようにしていただきたい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価の保護者および生徒アンケート「心の教育項目」達成率をそれぞれ75%以上	・人権・同和教育を根幹におき、道徳教育や特別活動を充実させ、仲間づくりを推進し、豊かな心を育む教育を推進する。	B	・思いやりや感謝の項目は、保護者が91%、生徒は97%が肯定的な回答をしていた。ただし、職員は4件法で平均2.85にとどまっておらず、さらなる取り組みが必要だと感じている者が少なくない。	A	・学校としては取り組みが不十分だったと反省されている面があるが、実践されたことの報告を伺うと、このコロナ禍の状況で工夫を重ねながら取り組みがなされていると感じられた。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・日常の生徒観察や教育相談アンケート(心のとびら)を年10回実施し、事象の掘り起こしと生徒の心の変化の共通理解に努める。	B	・いじめ等について組織的対応ができていると肯定的に回答した職員が100%であった。いじめに関する定期的なアンケートも毎月実施できた。認知件数は増加しているため、防止策を充実させていきたい。	A	・いじめ認知・認知の件数は増加しているが、これは先生方が早期発見・早期対応を心がけていることの現れでもある。今後も小さなことを見逃さず、深刻な事象の発生を発生しないようにお願いしたい。	(主)生徒指導主事 (副)各学年主任
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える生徒90%以上	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	C	・夢や目標に向けて頑張ろうとする気持ちがあると、肯定的に回答した生徒は85%にとどまっている。15%程度の生徒が肯定的な回答だったので、来年度に向けて改善が必要である。	B	・生徒たちの夢や目標に関しては、生徒たち自身の課題であることから、長期的な視野で見つけていく必要があるであろう。コロナ禍の現状では困難な面もあるだろうが、例えばゲストティーチャーを招聘する等、取り組みを改善していただきたい。	(主)教務主任 (副)各教科主任
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上	・毎日の給食時の放送で、食に関する様々なトピックスを紹介する。	A	・健康に食事が大切であると肯定的に回答した生徒は98%であった。ただし、改善されつつあるものの、一部残菜の課題は残る。生徒アンケートの中には「量を減らしてほしい」という意見もあった。今後の検討課題である。	A	・本校の朝食を食べている率が、かなり高かったことは安心した。残菜の課題については、各々の学年の特性もあるだろう。この傾向は小学校のころから見られていた。子供の心にはたらくかけよう、例えば弁当の日を設けたり、残菜の状況を保護者に伝えたりするなど、家庭の協力も必要であろう。交通安全に関しても、地域の者として、みなさんでよく協力して子供たちを見守ることができていると感じている。今後も学校・保護者・地域が一体となって活動を続けていきたい。	・給食指導担当 ・養護教諭 ・生徒指導主事
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・交通安全教室の実施や職員と育友会や外部機関と連携しての登下校時の見守り活動を行う。					
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休業日の設定	C	・各月の時間外勤務時間の集計結果で、40時間以上が減少してきた(11月:19名、12月:16名、1月:14名)。職員用の質問紙でも意識の高まりは見られた。しかし、目標は達成できておらず、さらなる改善が必要である。	C	・本項目に関しては、先生方ご苦労さまですしお申し上げられない、法的な目標ラインもあるので、さらに工夫改善を進めていただきたい。協力できることがあれば協力していきたい。	・管理職
	○事務システムポータル及び校務システムの有効活用	○事務システムポータルを毎日3回チェックする職員100%	・業務上の資料配布や事務的な連絡事項をシステム上で行い、システムを活用しなければならぬ必然的な環境を構築する。	B	・業務上の事務的な連絡や文書の配布のために、事務システムを活用することは随分と浸透してきた。ただ、活用度合いの個人差がまだあるので、継続して取り組む必要がある。	B	・生徒一人ひとりに端末が配布されることも聞いている。コロナ禍の影響もあるだろうが、今後ますますICT化が加速していくので、うまく活用しながら効率化を進めていただきたい。	・管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○不登校対策	○教育相談運営体制の充実と不登校生徒への支援拡大	○本項目は数値目標はそぐわないので、不登校対策委員会にて相互に質的評価を行う。	・SC、SSW、SSF等外部機関との連携を強化する。 ・ケース会議を工夫し有効な支援策を探る。	B	・校内体制の充実と外部との連携はよく実施できた。しかし、不登校生徒数は減少したとはいえ、ケースによっては困難な課題が残っているため、今後も組織的な取り組みが必要である。	A	・確かに不登校生徒数は少ないが、先生方の取り組みや、各種専門家や外部機関との連携はよくなされていると評価できる。さらに各ご家庭との連携をすすめ、個々の課題に取り組んでいただきたい。	・教育相談担当 ・養護教諭

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・学力の向上については、新学習指導要領全面実施に向けて授業改善を進めることができた。今後は、基礎・基本の充実と活用力を伸ばす取り組み、指導と評価の一体化を目指した評価方法の工夫・改善を進めていきたい。 ・生徒指導の課題やいじめ問題への対応として、全職員が「チーム鬼塚」として組織的に対応することができた。今後は、未然に防止するための開発的な生徒指導や、集団づくり・仲間づくりの取り組みをさらに充実させていきたい。 ・不登校対策として、職員の連携・各種専門家との連携・外部機関との連携がうまくとれるような体制が整えられた。今後は、個々のケースに対する支援の向上や、各家庭との連携を深める取り組みを進めていきたい。
----------------	---